日本聖公会東京教区　大森聖アグネス教会

馬込便り

Since 1920
Anglican Episcopal Church

249 号
2025 年 1 月 26 日発行
編集・印刷：
馬込便り編集グループ

日本聖公会　東京教区　大森聖アグネス教会
管理牧師　司祭　シモン・ペテロ　上田憲明
〒143-0025　東京都大田区南馬込 1-58-8
Tel＆Fax（03）3771－3459
E メール：agnes.tko@nskk.org
ホームページ: www.nskk.org/tokyo/church/oomori/

＊巻頭言＊

《光と闇を創造される神》

管理牧師：
司祭　シモン・ペテロ　上田憲明

悩みの中にいる人は、「どうしたらいいのだろう？」とか「何がいけなかったのだろう？」と考えるあまり、いわば白黒の世界に迷い込んでしまうことが多い。この世の中には、白黒をはっきりさせなければならない事もないわけではないが、様々な事を考慮に入れれば入れるほど、そう簡単に白黒はっきりさせることが出来る事はそう多くない。

自然界を見渡すと 100%の純度のものは、ほとんど存在しない。むしろ、人間は苦労して、99.9999%というような 100%に近い純度のものを必死で作ろうとしている事の方が多いことがわかる。水にしろ、空気にしろ、人間にとって非常に大切なものは、むしろ不純物が混じっているというか、様々なものが入っている状態の方が適切なのであって、呼吸に酸素が必要だからといっても、100%の酸素は爆発する危険が絶えずあるし、100%純粋な水 H2O を飲むとお腹をこわしてしまうという。

この世界になぜ、闇があるのかはわからないが、光だけの世界があるとしたら、眩しくてきっと生きてはいけないのだろう。わたしたちは闇や陰を抱えて生きているからこそ、神の光が必要なのだと思う。単純な二元論、つまり光＝善＝良、闇＝悪＝邪というような単純化した二元論だけでは、この世界は推し量れないのだと思う。むしろ光と闇は複雑に絡み合って、この世界は造られていると思える。人間の作ったコンピューターは、基本的に電気のオンオフだけで様々な作業をしている。そういう意味で言うと、二元論を元に組み立てられているのだが、そこで表現されることは、とても複雑である。

私自身が最初にコンピューターを使い出したのは、中古で買った MacSE という小さい画面がついた、白黒のパーソナルコンピューターだった。それから数年経った頃に、カラーを扱えるコンピューターが販売されるようになり、その時は二百五十六色が表現できるようになり、きれいだと思ったが、さらに数年も経たないうちに、約千六百万色の違いが出るコンピューターが販売され、その色の違いを見てみると、はっきりと違いが見て取れて、驚いたことを覚えている。今や、手のひらサイズのスマホでさえ、そのコンピューターのできることの、何万倍の能力があるのだが、それにも関わらず、それらすべてが、電気信号のオンオフで成り立っているという原理を聞くと、とても不思議に思えてしまう。

人間の作ったコンピューターでさえ、そうなのだから、まして神さまの造られたこの世界は、さらに、驚きに満ちたことが隠されているのではないかと思う。

悩みを聞いても、解決策を示せないことの方が多い。でも、そういう時こそ、悩みをしっかり聞いた上で、白黒の世界に落ち込んでいる人に、この世は、総天然色カラー（昭和的な言い方ですね）の世界であることを示す事ができたらと願う。

「光を造り、闇を創造し、
平和を造り、災いを創造する者。
私は主、これらすべてを造る者」
イザヤ書四十五章七節